

V. その他報告(代表理事 杉尾 哲)

1. 令和3年度環境大臣表彰を受賞しました

令和3年度環境省の地域環境保全功労者等として環境大臣表彰を受賞しました。皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。なお、東京での環境大臣による表彰式は毎年6月の環境月間にあわせて環境省庁内で行われていたが、本年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止となり、伝達式が宮崎県環境森林部長室で行われ、表彰状と記念品が授与された。

令和3年度環境保全功労者等 環境大臣表彰伝達式

日時：令和3年7月5日(月) 11時から

場所：宮崎県庁7号館 2階 環境森林部長室

また、宮崎県知事が伝達式当日に出席できなかったため、知事への受賞報告を別途行いました。



2. 宮崎日日新聞社から寄付金が贈呈されました

本団体が、大淀川流域を中心に県内各地で河川美化や環境啓発活動に取り組んでいるとして、宮崎日日新聞社が宮崎県内企業から集めた浄財が寄付金として贈呈式が行われました。より良い川の環境を次世代に引き継ぐために、今後とも川の素晴らしさ・大切さ・楽しさを伝えていく活動資金として活用させていただきます。

日時：令和4年3月15日(火) 13時半から

場所：宮崎日日新聞社 応接室



以上の2件は、本団体の環境活動が社会的に評価されていることを客観的に示していると考えます。これに満足することなく、次世代にうるおいのある川を受け渡すために、今後もさらに充実させて実施すべきであると評価します。

3. 理事会を開催しました

理事会は、隔月で午後3時から計6回開催した。

第1回 令和3年4月15日 宮崎市民活動センター会議コーナー 6名出席

役員改選、定款変更(従たる事務所の変更)、部会報告、総会の表決方法などについて協議

第2回 令和3年6月17日 宮崎市民活動センター会議コーナー 6名出席

九州「川」のワークショップ in 日向、宮崎の自然豊かな河川環境フェスティバル2021について協議

第3回 令和3年8月19日 ZOOM会議 6名出席

みやざき元気体験プログラム、大淀川クリーンアップなどについて協議

第4回 令和3年10月13日 ZOOM会議 5名出席

カレンダーの絵の審査、大淀川リビング、JR ウォーキングなどについて協議

第5回 令和3年12月22日 宮崎市民活動センター会議コーナー 6名出席

広報誌No.28の内容、令和4年大淀川リビング、令和5年度卓上カレンダー作成などについて協議

第6回 令和4年2月16日 ZOOM会議 5名出席

全国一斉水質調査、通常総会、パーム伐採材の活用、次年度水辺工法研修会などについて協議

4. 「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」を運営しました

この研究会は、宮崎県との協働事業として平成19年度から実施していて、本団体が事務局を務めています。河川等に関係する行政や企業の技術者に対する多自然川づくりの人材育成として、水辺の工法研修会、川づくりコンペ、身近な水辺のモニター報告会、現地研修会などを開催している。本年度も、新型コロナウイルスの影響を受けて、開催方法を変更して実施した。

●水辺の工法研修会の開催

本年度の研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮して第1回と第2回はオンライン方式で開催したが、第3回は受講者数を制限して対面方式で開催した。

1) 令和3年度 第1回研修会

期間 令和3年7月14日(水)～7月16日(金)

講師1 公益財団法人 リバーフロント研究所 主席研究員 吉田邦伸 氏

題名 川の営みを活かした治水と環境の融合した川づくりについて

講師2-1 (旧)宮崎県小林土木事務所 河川砂防課 福元美穂 氏

題名 辻の堂川の多自然川づくり

講師2-2 (旧)宮崎県延岡土木事務所 河川砂防課 赤木啓悟 氏

題名 生態系に配慮した河道掘削について

講師2-3 (旧)宮崎県西臼杵支庁 土木課 三林 聖 氏

題名 「神代川かわまちづくり」における取組について

受講者数：行政37名、民間804名



2) 令和3年度 第2回研修会

期間 令和3年10月6日(水)～10月8日(金)

講師1 南九州大学 教授 平岡 直樹 氏

題名 河川景観分析の基礎と戦後の河川景観・利用形態の移り変わり

講師2 宮崎大学 教授 伊藤 哲 氏

題名 川づくりで考慮されるべき水辺生態系の機能の種類とその配置

受講者数：行政31名、民間747名



3) 令和3年度 第3回研修会

実施日 令和3年11月24日(水) 会場：日向市中央公民館

令和3年11月25日(木) 会場：宮崎市清武文化会館

講師1 宮崎河川国道事務所 副所長 中島 忠 氏

題名 河川における環境対策について

講師2 信州大学 教授 平林公男 氏



題名 河川中流域における生物生産力と生産性管理基準の提案

受講者数：行政 9 名、民間 85 名

●身近な水辺のモニター担当者への説明会の開催

各土木事務所で河川モニターと実施する川の生き物のすみかの環境調査シートによる河川特性調査について、実施方法を解説して、河川での実習を行った。

実施日 令和 3 年 6 月 8 日 (火)

会場 綾町役場 南第一会議室・本庄川

講師 九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏

参加者数 県河川課と土木事務所 16 名



●水辺の工法 現場研修会の開催

現場研修会は、昨年度に続いて防災・減災、国土強靱化のための 3 か年緊急対策の現場における多自然川づくりの考え方の知見と技術の習得を目的として、行政職員と企業技術者を対象として、講義とグループ学習、グループ発表を実施した。

実施日 令和 3 年 6 月 21 日 (月)

会場 宮崎県建設技術センター 大会議室

講師 九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏

講義名 樹木伐採・河床掘削における留意点や適切な方法等について

参加者数：行政 15 名、施工会社 13 名



●第 15 回うるおいのある川づくりコンペの開催

「私たちがめざすうるおいのある川や水辺はどんな姿なのか」について、河川で活動する企業・行政に呼びかけて開催した。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面方式の審査会の開催を中止し、その代替えとして書類選考で審査した。審査の結果を以下に示す。

【金賞】団体名：岡田工業株式会社

テーマ：増水時に霞堤開口部に流入する倒木を樹林帯の拡大する事により流入抑制

【銀賞】団体名：宮崎河川国道事務所

テーマ：地域とともに水辺の賑わい創出

【銀賞】団体名：西都土木事務所

テーマ：三財川での大聖牛工法による多様で複雑な景観への変化

【銅賞】団体名：日向土木事務所

テーマ：五十鈴川大池地区における河川環境に配慮した河道掘削

【銅賞】団体名：延岡土木事務所

テーマ：治水安全度の向上と生態系に配慮した河道掘削について

この結果、岡田工業株式会社と西都土木事務所の 2 件が宮崎県河川課の代表として川づくりコンペ九州大会の発表課題に選出された。また、西都土木事務所と国交省から応募した宮崎河川国道事務所の課題は九州大会で優秀賞を受賞して全国多自然川づくり会議の九州代表に選出された。

発表団体数 14 団体

審査員 宮崎河川国道事務所 副所長 中島 忠 氏
延岡河川国道事務所 副所長 杉田 聡 氏
宮崎県県土整備部 河川課長 小牧利一 氏
宮崎大学工学教育研究部 准教授 大榮 薫 氏
NPO 法人手仕事舎そうあい 理事長 蒲生芳子 氏
五ヶ瀬川流域ネットワーク 理事長 土井裕子 氏
九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏

●身近な水辺のモニター報告会の開催

県内 11 か所の土木事務所等で地域住民の方々をお願いしている水辺のモニターの報告会は、全員が集合して開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮して、活動内容が報告された発表資料をまとめた冊子を作成し、書面会議に変更して実施した。

発表団体数 12 団体

以上の宮崎県との協働事業は、多自然川づくりのための人材育成として機能している。水辺工法の研修会は、昨年度の第 1 回から新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮してオンライン方式で開催していたが、第 3 回は受講者数を制限したものの対面方式で開催できた。この研修会の開催が本県の多自然川づくり推進の原点であり、その成果として九州多自然川づくりコンペや全国多自然川づくり会議において高く評価されている。次世代にうるおいのある川を受け渡すために、今後も引き続いて対面方式で開催できることを期待します。

5. 河川協力団体として活動しました

本団体は、大淀川下流域の河川協力団体として活動している。その活動として、宮崎河川国道事務所と住民団体との連携・協働、防災や環境情報の収集、河川に対する住民の理解の促進を図るために、下記の業務と活動を行った。

●みやざき川づくり交流会の運営補佐

宮崎河川国道事務所が開催する「みやざき川づくり交流会」の運営を補佐している。今年度は、令和 4 年 2 月に宮崎河川国道事務所に対面方式での開催が準備されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮して書面会議方式に変更して開催された。各団体の活動などのトピックスやコロナ禍において活動できた事例などの報告が取りまとめられた冊子が作成されて配布された。

●簡易水質調査の実施補助

宮崎河川国道事務所が地元の小学校等と共に実施する水生生物調査において実施補助を担当し、水辺での活動時の水辺での実施の指導補助を行った。

実施日 6 月 29 日(火)

場所 綾町松原自然公園

●小松排水機場の一部利用

令和 3 年 6 月から国土交通省小松排水機場の一部を「河川を活かしたまちづくり活動の拠点、流域連携活動の拠点」として利用することになり、下記について維持管理の補助を実施した。



- ① カヌー等資材貸出に関する対応：
貸出・返却時に個数と破損状況の確認
- ② 小松排水機場倉庫内の機材貸出申し込み受付：
7団体受付
- ③ 水防用備蓄資材の管理：随時実施
- ④ 待機室及び排水機場の共用スペースの清掃：
毎月第4週の金曜日と必要に応じて実施
- ⑤ 待機室及び駐車場等周辺敷地の利用管理協力：
随時実施。その他、花火大会開催後のごみ拾い等
- ⑥ 待機室及び駐車場等物品管理協力、火元管理協力、施錠
解錠管理協力：随時実施



河川協力団体としての活動は、宮崎県内の環境団体との連携を深めるとともに、国土交通省との相互理解を深め、本団体の活動を連携して推進するのに極めて重要である。今後も積極的に継続すべき取り組みであると評価します。